

## 協働事業提案書

NO. 5

1. 事業名	つるま自然の森 <small>りよく</small> <small>いく</small> <b>緑育事業</b> 緑を育て、緑で育つ
2. 提案者	『リーフパイ』代表：島田順子
3. 事業の目的	<p>緑育事業は、子ども達が緑を育て、そしてその緑で子ども達もまた育つことを目的とします。</p> <p>緑育事業は、地域の大人たちが緑を育てる子ども達を手助けしながら、コミュニケーションを図り、大人の知恵を伝え、森を愛する心を育みながら、緑を残すことを目的とします。</p> <p>緑育事業は、子ども達と内山自治会や内山子ども会、内山を住みよくする会、森の地権者の皆さん、つるまの森保全協力会、森に親しむすべての大人たち、そして、大和市役所ご担当部署の方々とは大きな輪となって、緑を育て合うことを目的とします。</p>
4. 事業の内容	<p>森が森として美しくあるための管理と保全の手法を編み出します。</p> <p>森の柵を完成させ、現状の柵の痛んだ部分を補修します。</p> <p>森のイベントを告知する掲示板を林内、数カ所に建てます。</p> <p>森の利用と保全の折り合いを生き物と相談しながら進めます。</p> <p>年間の草刈り計画/間伐計画を立て、実行します。</p> <p>計画には十分な時間をかけ、近隣の要望も聞き、長期見通しのスケジュールを立て、実行に移します。</p> <p>毎木調査(本数/樹種/樹高/胸高直径など) 植生調査、生き物調査(野鳥/昆虫/爬虫類など) 観察会をかねて行います。</p> <p>“つるま自然の森”の利用の変遷を(聞き取り)調査することも、今後の森再生の参考になると考えます。</p>

### 森の現状

つるま自然の森は、大和市都市計画マスタープランによって「市内で保全されている6つの緑地」のうちの1つであるにもかかわらず、大和市の北のはずれにあるためか、森の所在さえも認知されにくいのが現状です。

至近の内山地区の皆さんにとっては、“つるま自然の森”があるのは当たり前と感じられており、未来永劫そこにある緑と信じられています。

大人たちは言います。「つるま自然の森？ ああ、あの痴漢森」と。

子どもの頃には、走り抜けていたものだと。

そして今もまだ残念なことに、つるま自然の森は「痴漢森」の汚名を100%晴らせてはおりません。

人が足繁く入ることによって、森は安全・安心な場所に生まれ変われます。

### 子どもの現状

今、子ども達は、しても良いこと、悪いことのけじめを知らない。

今、子ども達は、現物（自然の現実）を見ていない。

今、子ども達は、個で育っている。

家庭の中で少子、バーチャル世界（ゲーム等）で日々を暮らしている子ども達よ「野に出でよ」と誘うのです。

野に出て、腕白に過ごすうちに子ども達なりのルールを見つけることでしょう。その中で、して良いこと、悪いことのけじめを学ぶのです。

野に出て、バーチャル世界ではない自然界の不思議に出会うのです。

野に出て、同学年・クラスメートではない年上・年下の子ども達が一緒に遊び、協力しあって課題を成し遂げるのです。

とは言え、森の現況は大型ゴミが捨てられたり、雑誌が読み捨てられていたり、かなり悲惨な場面もあります。

これにはもっと市民が森に関わり、ゴミを拾う、林床の下草を刈る、間伐や枝払いをして見通しのよい森に再生する、といった汗を流す必要があります。

もっと、森と仲良くなりましょう。

もっと、森を楽しみましょう。

ゴミ拾いは、人の集まるパーティです。

「たくさんのゴミを集めるお金持ちゲーム」「ゴミの種類を競うビンゴゲーム」「ピンポイントに1種類だけ集めるコレクターゲーム」など

大いに遊びましょう。

## 5. 提案の理由

6 . 市に期待する 役割	<p>草刈りは、草の実、木の実のグルメツアーです。  それには、初夏の森は絶好調です。  雑草という名の草はない。  草刈りは、草や木の名前を覚えるチャンスでもあります。  名前を覚えたら、もっと好きになれる、もっと仲良くなれるのです。  生き物の名前を覚えるのは、森が友達になる初めの1歩です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報の提供・共有                      ・ 活動場所の提供</li> <li>・ 広報活動                                  ・ 説明会等への参加</li> <li>・ 行政機関等との連絡調整</li> <li>・ その他</li> </ul> <p><b>地主さんへの声かけ：</b>“ つるま自然の森 ” のすべての地主さんに、は無理としても、森の保全に力を貸して下さる地主さんに、本事業への参加を呼びかけて下さい。</p> <p><b>内山自治会への交渉：</b>市民と一緒に森を保全することを提案し、自治会に或いは子ども会に共催して貰えるように、橋渡しをして下さい。</p> <p><b>中央林間小学校・つきみ野中学校への提案：</b>授業に森を活用しても貰えるように、森の紹介、森のイベントに子ども達を誘わせて貰う（チラシの配布）等の協力を要請して下さい。</p> <p>森の柵 / 森の掲示板を造って下さい。</p> <p>場合によっては、材料の提供を受け市民が労働することも可能かと考えております。</p> <p>森の管理のための道具類（エンジン刈払機・草刈鎌・間伐が許された場合は、チェーンソー・手押し車・これらを収納する鍵の掛かる倉庫等など）を提供して下さい。</p> <p>中央林間コミセンに、倉庫を設置できる場所を確保して下さい。</p>
7 . 事業期間	平成 17 年 4 月～20 年 3 月（平成 17 年度から 3 年間）
8 . 事業に要する 経費	例えば、森の柵を何処まで補修するかの見極め（現状の杭で補修するのか、新規の杭を購入するのかなど）が必要なので、明確な金額は出しにくいのですが、年間 100 万円以上は必要ではないでしょうか。概算 3 年間で 300 万未満と考えます（予算案は別紙）。
9 . 事業の効果	<p>森が元気になる。  子どもたちが元気になる。  身近な自然を楽しめる。  <b>遠くの富士山より地元の“ つるま自然の森 ” ！</b></p>